令和４年度　社会福祉法人三恵会事業報告書

1. 事業概要

特別養護老人ホームを中核とし、ショートステイ、デイサービス、在宅介護支援センター、居宅介護支援事業所、養護老人ホーム等の社会福祉事業を行い、お年寄りの介護を通して、地域の方々の生活を支援しています。

2. 監査会　　令和４年６月８日（水）　　ひかわ会議室
令和３年度収支決算の監査

3. 理事会

第１回　令和４年６月 12 日(日)　　ひかわ会議室

14. 令和３年度事業報告
15. 令和３年度決算報告
16. 監事による監査報告（当日配布予定）
17. 令和５年度給与規定変更案（別紙）
18. 本部への資金移動の承認
19. 養護老人ホーム富士見園の大規模修繕計画承認
20. 次回評議員会の議題

第２回　令和４年 11 月７日（月）　　ひかわ会議室

1. 令和４年度上半期事業報告
2. 令和４年度一次補正予算案
3. 介護記録ソフトの新規購入
4. 令和５年度就業規則案
5. 令和５年度給与規定案
6. 次回評議員会の議題

第３回　令和５年３月６日（月）　　富士見園会議室

1. 令和４年度　下半期事業報告
2. 令和４年度　二次補正予算案
3. 令和５年度　事業計画
4. 令和５年度　当初予算案
5. 富士見園大規模修繕の設計業者の選定
   及び一般競争入札での実施承認について
6. 本部への資金移動の承認
7. 令和５年度　役員賠償責任保険契約内容
8. 新理事、新監事候補者の選定
9. 次回評議員会議題

4. 評議員会

第 1 回　令和 4 年 6 月 26 日(日)　　ひかわ会議室

8. 令和 3 年度事業報告
9. 令和 3 年度決算報告
10. 監事による監査報告
11. 令和 5 年度給与規定変更案(別紙)
12. 本部への資金移動の承認
13. 養護老人ホーム富士見園の大規模修繕計画承認

第 2 回　令和 4 年 11 月 20 日(日)　　ひかわ会議室

1. 令和 4 年度上半期事業報告
2. 令和 4 年度一次補正予算案
3. 介護記録ソフトの新規購入
4. 令和 5 年度就業規則案
5. 令和 5 年度給与規定案

第 3 回　令和 5 年 3 月 26 日(月)　　ひかわ会議室

1. 令和 4 年度　下半期事業報告
2. 令和 4 年度　二次補正予算案
3. 令和 5 年度　事業計画
4. 令和 5 年度　当初予算案
5. 富士見園大規模修繕の設計業者の選定
   及び一般競争入札での実施承認について
6. 本部への資金移動の承認
7. 特別養護老人ホームひかわ歩道整備事業について
8. 新理事、新監事の専任

5. 目標に対する自己評価　＜三恵会＞

法人　目標①	高齢で普通の生活が出来なくなった人達に対して「あたりまえの生活が出来るように支援していく」と云う法人理念に則り、お年寄りとそのご家族を支援していく。
評　価	新型コロナウイルスのクラスターが発生し、入居者には長期間の生活制限を実施せざるをえなかった。ただ流行期間以外においては対面による面会を継続し入居者、家族ともたくさんの交流の機会を設けることが出来た。

法人　目標②	養護老人ホーム富士見園の大規模修繕を実行する。
評　価	養護老人ホーム富士見園の大規模修繕計画が承認され、令和 5 年度中に着工、竣工予定で進んでいる。

特別養護老人ホーム三恵苑事業報告

1. 事業概要

人生の最後を悔いなく、楽しく送って頂けるように。そして『あたり前な生活が出来るように』特養入居者 76 名と短期利用者 4 名のお年寄りの生活を支援しています。

2. 月間利用者延人数 （特養・短期合計）

令和3年	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	合計
	2,352	2,393	2,276	2,385	2,328	2,280	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	28,155
	2,396	2,343	2,439	2,423	2,189	2,351	
令和4年	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	合計
	2,273	2,354	2,279	2,313	2,338	2,220	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	27,030
	2,322	2,220	2,311	2,231	1,956	2,213	

3. 退所の状況

退所者 19 名 （昨年度 25 名）

性別	年齢	介護度	退所理由	性別	年齢	介護度	退所理由
男	78 歳	5	病院にて逝去	女	79 歳	3	苑にて看取り
女	85 歳	3	苑にて看取り	女	79 歳	5	苑にて看取り
男	78 歳	5	苑にて看取り	女	91 歳	2	療養病院入院
女	88 歳	4	苑にて看取り	女	83 歳	3	苑にて看取り
男	88 歳	4	利用終了	男	81 歳	3	苑にて看取り
女	93 歳	4	苑にて看取り				
女	79 歳	4	病院にて逝去				
女	90 歳	3	療養病院入院				
女	86 歳	5	療養病院入院				
男	89 歳	5	病院にて逝去				
男	91 歳	3	療養病院入院				
男	70 歳	4	苑にて看取り				
女	87 歳	3	苑にて看取り	退所者平均年齢 84.5 歳			
女	91 歳	3	病院にて逝去	看取り 今年度 10 名（昨年度 10 名）			

4. 入居者の年齢構成

R5.3.31 時点

	～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～99	100～	平均	最高齢
男	0	1	6	5	2	3	0	0	82.2	92
女	1	4	5	12	11	9	7	2	85.9	102
計	1	5	11	17	13	12	7	2	84.9	

5. 入居者の介護度別人数

R5.3.31 時点

区分	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均介護度
令和 3 年	3	3	26	29	11	3.58
令和 4 年	3	1	26	26	12	3.63

6. 月別入・退所者状況

月　別		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	
在　籍		73	74	76	74	74	74	75	75	75	72	72	71		
入院者		2	2	2	1	2	4	8	5	3	2	1	3		
入所	男	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	3	12
	女	0	1	1	1	1	1	0	0	0	1	2	1	9	
退所	男	1	0	1	1	0	0	1	1	1	0	0	1	7	19
	女	0	1	1	1	2	0	1	0	0	3	2	1	12	

7. 職員の状況　（特養・短期合計）　R5.3.31 時点

職　名	人数		兼務の状況	性別	資　格
	常　勤	非常勤			
施設長	1			男	社会福祉主事
事務員	1			女	
事務員	1		○	女	
事務員		1		女	社会福祉主事
相談員	1		○	男	介護支援専門員、介護福祉士
ケアマネ	1		○	男	介護支援専門員、社会福祉士
主任	1			男	介護福祉士
リーダー	1			男	介護福祉士
リーダー	1			女	介護福祉士
介護職	9			男	介護福祉士
介護職	7	5		女	介護福祉士
介護職	1			男	介護職員実務者研修
介護職		2		女	介護職員初任者研修
介護職	1			男	
介護職		1		女	
看護師		3		女	正看護師
看護師	3			女	准看護師
栄養士	1			女	管理栄養士
介助員		2		男	
洗濯		2		女	
宿直員		3		男	
合　計	30	19	介護職員：入居者数　＝　1　：　2.75		

8. 目標に対する自己評価

特養 目標①	1. 入居者と職員が毎日笑顔で生活できるよう、相手に対する思いやりの気持ちを持って接することを心がける。 2. 施設内に感染症を持ち込まないために職員全員が感染予防を徹底する。また日々変化する感染症の情報を正確に把握し適切な対応を行っていく。

	3. 職員の業務軽減や入居者の生活がより充実できることを目的とし、ICT を取り入れ活用していく。
評価	令和 4 年 11 月から令和 5 年 2 月にかけて新型コロナウイルスのクラスターが発生した。感染対策の徹底により職員の感染は最低限に抑えられ施設の運営は継続できた。また重症者が出ることなく終息したが入居者には日常生活において多くの行動制限を実施せざるをえなかった。ICT は積極的に取り入れており徐々にではあるが業務の効率化が図られている。
介護【1 階】 目標	1. コロナ禍の現状で制限ある生活を強いられているが、入居者が笑顔を絶やすことなく充実した日々が送れるよう、心身の状態把握・環境整備に尽力していく。 2. 職員は各自健康管理を徹底する。
評価	新型コロナウイルスのクラスター発生に伴い入居者には長期にわたり隔離生活を強いる生活が続いた。しかしその中で現状できる範囲の催しを開催する等楽しめた事もあったと思う。また、入居者、職員共に罹患者が出たが、大事に至らず終息する事が出来た。
介護【2 階】 目標	1. 利用者様が笑顔で生活できる雰囲気をつくり、三恵苑での生活が楽しい思い出になる様にする。 2. 入居者の状態変化に気づける様に知識の向上を行い、一人ひとりに合ったサービスを提供する。
評価	コロナ禍ではあるが、施設内で出来ることを行い楽しむことが出来ていた。年末から年始にかけクラスターが発生。居室対応が増え日々の業務を行うことがままならず、利用者様にはある程度の制限がかかりストレスとなってしまった。
医務室 目標	1. 感染予防対策の徹底に努める。 2. 入居者の体調管理に努める。観察、早期発見、的確な判断で対応する。 3. 職員の健康管理に努める。
評価	新型コロナウイルスのクラスター発生で感染対策徹底の大変さと大切さを痛感した。入居者には辛く大変な思いをされましたがなんとか乗り切ることができて良かったと思う。この経験を今後も活かせるように努力したいと思う。
厨房 目標	1. 利用者の状態を把握し、個々に合った食事内容を提案していく。 2. 食事摂取基準を満たし満足度の高い食事を提供できるよう調理スタッフと協力していく。また喫食率を上げ低栄養改善に努める。
評価	1. ミールラウンドにより、利用者の食事状況を把握でき、細かい対応ができた。 2. コロナ禍で行事の中止が相次いだが、行事食は計画通りに提供し、制限のある生活の中でも唯一の楽しみを提供できた。また、低栄養状態の改善のため、引き続き喫食率の向上を目指していく。

養護老人ホーム富士見園事業報告

1. 富士見園基本方針

1　利用者の皆さんの自立と個人の尊重を重んじ、生きがいを持ち、安心して楽しい生活が出来るように支援します。

2　職場の将来展望において、職員全員が共通意識のもと、意識改革と自己研鑽を積み、働く喜びを共に感じられる職場にします。

3　一施設としての事業展開にととまらず、広く地域の福祉推進者としての視点を常に持ち行動します。

2. 入居者の状況

1）実施機関別在園者数

R5.3.31 時点

機関／性別	大宮区	西区	北区	見沼区	中央区	桜区	浦和区	南区	緑区	岩槻区	富士見市	合計
男	5	8	5	3	1	1	0	0	0	9	0	32
女	8	13	10	5	0	2	0	0	0	8	1	47
計	13	21	15	8	1	3	0	0	0	17	1	79

2）年齢別在園者数

R5.3.31 時点

年　度	令和 1 年度		令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度	
年　齢	男	女	男	男	女	男	男	女
65 歳以下	0	0	0	0	0	0	0	0
65～70	4	2	4	4	2	4	2	2
71～75	8	4	7	8	4	7	7	4
76～80	12	11	14	12	11	14	10	11
81～85	10	11	8	10	11	8	8	17
86～90	3	5	4	3	5	4	2	5
91～99	2	7	2	2	7	2	2	9
100 歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0
計	39	40	39	39	40	39	31	48
総　計	79 名		85 名		83 名		79 名	

※平均年齢　男 80.4 歳　女 82.3 歳　平均 81.5 歳　最高年齢　男 99 歳　女 99 歳

3）月別入・退所者状況

月　別		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	
在　籍		83	82	81	83	82	84	84	86	84	83	83	83		
入園	男	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	7
	女	0	0	1	0	1	0	0	0	2	1	0	1	6	
退所	男	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	4	11
	女	2	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	1	7	

4)退所事由別

年齢 / 性別	死　亡	施設替え（特定施設等）	入　院（措置切れ）	家庭復帰	計
男	4	0	0	0	4
女	3	4	0	0	7
計	7	4	0	0	11

5)入園前の居所別

居所 / 性別	家　庭						小計	病院老健	施設（救護）（厚生）（身障）	その他	計
	配偶者	子供	兄弟姉妹	その他の親族	ひとり暮らし	その他雇主等					
男	0	2	0	0	22	1	25	1	0	5	31
女	0	5	3	3	27	0	48	0	0	0	48
計	0	7	3	3	59	1	73	1	0	5	79

6)在園期間別

居所 / 性別	1年未満	1年	2年	3年	4年	5年	6～9	10～14	15～19	20年以上	計
男	1	2	4	2	3	7	6	5	1	0	31
女	7	5	6	0	4	4	11	6	5	0	48
計	8	7	10	2	7	11	17	11	6	0	79

平均在籍年数 6.2 年

7)入所事由別

理由 / 性別	住宅事情	身体障害	精神障害	病弱	家庭不和	老齢単独	経済的理　由	その他	計
男	1	0	2	1	0	7	18	2	31
女	9	0	6	0	7	8	18	0	48
計	10	0	8	1	7	15	36	2	79

8)介護保険認定状況　　R5.3.31 時点

区分	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
男	3	1	6	3	2	0	1	16
女	5	3	12	7	4	0	0	31
計	8	4	18	10	6	0	1	47

9. 目標に対する自己評価

富士見園 目標	1. 利用者と職員が笑顔で生活できる環境を提供し、現在当たり前にできていることをこれからも継続していけるように支援していく。 2. 利用者が安心・安全・快適に生活できるように施設環境を整備していく。 3. 職員全員が感染症に対しての知識を高め、予防対策を徹底していく。
評価	1. クラスターが発生し、行事等も中止せざる負えない状況になり、笑顔で生活してもらう事ができなかった。また色々と制限がある中で日常生活を送ることになり不便な思いをさせてしまった。 2. その都度、整備を行ってきたつもりだが、対応できなかった部分に関しては令和 5 年度に行う大規模修繕で改善していく。 3. 予防対策は徹底していたが、クラスターが発生してしまった。今後も発生すると思われる為、この時の経験を糧にして初動対応をしていく。
養護 目標	1. ADLの低下を防ぎ、利用者個々のできることを増やしていく。 2. 各セクションと連携を取りながら、一人ひとりにあった支援をしていく。 3. コロナ禍で外出できないことが続いている為、園内で楽しく過ごして頂けるよう工夫をしていく。
評価	1. ADL 低下を防ぐ為、利用者ができる事を行って頂くことで成果があった。 2. セクション間での連携を取ることができ、それぞれにあった支援もできた。 3. 園内でクラスターが発生してしまい園内で楽しく過ごせる環境を整えるまではできなかった。
特定 目標	ADL/IADLの心身状況を把握し信頼関係を築きつつ、出来ている事を維持し、穏やかに過ごして頂けるよう援助していく。
評価	加齢と新型コロナウイルス陽性による隔離対応で、ADL/IADL が低下された方が多かった。施設替え等で退所された方もおられ、出来る事を維持し生活していただく難しさを感じた。声掛けや傾聴することで穏やかに過ごして頂けたと思う。
訪問 目標	1. 元気で明るく活気のある生活ができるよう、口腔体操や笑いヨガ等を取り入れ、機能維持できるよう支援していく。 2. ストレスの溜まらない環境づくりとして軽い運動や脳トレ等を提供し、楽しんで生活してもらえるよう支援する。
評価	新型コロナウイルスの影響で十分な目標は達成できなかった。それでも元気に過ごそうとしている方がおられ、元気づけられた。大変な状況を経験され、さらに元気で長生きができると思う。
医務 目標	基本的な手洗い・含嗽・マスク着用・換気に加え、利用者・職員ともに不要不急の外出は控え、園内に感染症を持ち込まないよう努める。また、体調に変化があった場合は、敏速に対応していく。

評価	感染対策は行っていたが、クラスターが発生してしまった。そのために受診や入院が困難になった例もあった。今後感染対策は緩和されていくが、随時見直しを行いながら、基本的対策・早期発見と対応は継続しておこなっていく。
厨房　目標	衛生管理を徹底し、利用者の状態把握に努め、ひとりでも多くの方に喜んで頂ける食事づくりを目指す。
評価	衛生管理においては、今後も継続していく。利用者の状態把握については介護・医務と連携してコロナ感染者多数時期に厨房は感染予防の観点からフロアーの立ち入りが出来なかったが、報告を密にし状態把握をすることができたと思う。嗜好調査・検食簿の所見・食事中の聞き取りを参考に今後も喜んで頂ける食事作りを目指す。

特別養護老人ホームひかわ事業報告

1. 事業概要

入居者、一人ひとりに合った援助を心がけ、ひかわでよかったと、入居者とその家族に思ってもらえるよう努力します。また施設の全体行事として、あおぞら市・納涼大会・敬老会を行なう。

2. 月間利用者数　（特養、短期合計）

令和3年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
	3,282	3,238	3,245	3,417	3,439	3,183	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	39,585
	3,243	3,067	3,433	3,520	3,122	3,396	
令和4年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
	3,222	3,238	3,233	3,347	3,353	3,291	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	39,330
	3,288	3,155	3,380	3,400	3,057	3,366	

3. 退所の状況

退所者　33名　（昨年度31名）

性別	年齢	介護度	退所理由	性別	年齢	介護度	退所理由
女	86	2	入院中に死亡	男	99	4	看取り
女	99	4	看取り	女	88	5	看取り
女	89	4	療養病院	男	83	3	ひかわにて死亡
女	96	4	看取り	女	86	5	看取り
女	89	4	療養病院	女	93	3	看取り
男	89	4	入院中に死亡	男	85	3	療養病院
女	89	3	療養病院	男	83	4	療養病院
女	96	3	看取り	女	82	4	ひかわにて死亡
女	80	5	入院中に死亡	女	98	3	ひかわにて死亡
女	95	4	入院中に死亡	女	94	4	療養病院
女	87	3	療養病院	男	87	3	ケアハウス
女	90	5	看取り	女	95	1	病院にて死亡
女	87	5	療養病院	男	78	5	療養病院
女	92	4	看取り	男	96	5	看取り
女	94	4	看取り	女	103	4	看取り
女	95	4	療養病院				
男	95	2	ひかわにて死亡	退所者平均年齢歳　90.63歳			
女	93	5	病院にて死亡	看取り　今年度　12名　　昨年度9名			

4. 入居者の年齢構成

R5.3.31時点

	～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～99	100～	平均	最高齢
男	0	0	1	3	2	6	11	1	0	86.4	98
女	0	1	2	4	9	22	21	17	4	88.8	106
計	0	1	3	7	11	28	32	18	4	88.3	

5. 入居者の介護度別人数

R5.3.31 時点

区分	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均介護度
令和３年	8	12	43	26	18	3.32
令和４年	9	18	41	23	13	3.12

6. 月別入・退所者状況

月　別		４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計	
在　籍		107	107	106	108	108	107	103	100	103	103	102	101		
入院者		10	9	12	12	10	9	10	5	5	3	6	6		
入所	男	0	2	1	2	1	0	0	0	1	0	1	0	8	26
	女	1	4	1	2	1	2	0	2	2	2	0	1	18	
退所	男	2	0	1	1	0	0	1	0	2	1	0	0	8	29
	女	4	2	1	2	3	4	2	0	0	1	2	0	21	

7. 職員の状況　（特養、短期合計）

R5.3.31 現在

職名	人数		兼務の状況	性別	資格
	常勤	非常勤			
施設長	1		○	男	介護福祉士、社会福祉主事
事務長	1			女	社会福祉士、衛生管理者
事務員	1	1		女	簿記検定１級
相談員・ケアマネ	3		○	男	介護支援専門員、介護福祉士
相談員・ケアマネ	1		○	女	介護支援専門員、社会福祉士
ユニットリーダー	2			女	介護福祉士
ユニットリーダー	1			男	介護福祉士、介護支援専門員
ユニットリーダー	3			男	介護福祉士、ユニットリーダー研修
ユニットリーダー	6			男	介護福祉士
介護職	13	7		女	介護福祉士、介護支援専門員（1 名）
介護職	12	0		男	介護福祉士
介護職	2	0		女	介護職員実務者研修
介護職	0	0		男	介護職員実務者研修
介護職	5	18		女	介護職員初任者研修
介護職	2	0		男	資格なし
介護職	1	8		女	資格なし
看護師	2	0		女	看護師（1 名派遣）
看護師	3	1		女	准看護師
栄養士	1	1		女	管理栄養士
介助員	0	3	○	男	宿直兼務（2 名）
宿直員	0	1		男	
合計	60	40	介護職員　：　入居者数　1　：　1.76		

8. 目標に対する自己評価

特養　目標	1. 入所者への適切な対応を重要視して職員が各々の接遇方法を見直し、施設全体で良い雰囲気を作る。 2. 24H シートを適切に更新し有効活用をして、入居者一人一人のあたりまえの生活を実現する。
評価	1. 新型コロナウイルスの感染対策が多くユニットが閉鎖的になっており、また職員の気持ちも一杯一杯になっている状況である。荒々しい言葉遣いも聞かれており良い接遇であったとは言えない状況である。入居者に対する言葉遣いや態度に関して何件か職員に対し個別に注意した事例はあった。職員が大きな声で対応するなどして入居者に「怖い」という気持ちが生じたと思われる。職員は自覚があったり注意した内容について理解している様子はあった。現場で気になった事はその都度ユニット職員と話をしているが、接遇に関して根本的には変わっていないと思われる。注意だけでは大きく改善させることは難しいのかもしれない。その為には新しい対策が必要なのではないか？新型コロナが流行してから感染対策などを必要時に実施しておりユニット環境はますます第三者の目が不足して閉鎖的になっている。誰も見ていない、誰にもわからないという状況では事故や虐待等の観点からも良い方向には進んでいかないのではないか。 ①ご家族や関係者の面会をユニットで行えるようにする ②食堂等の共用部分にカメラを設置し常に第三者の目がある環境を作る。 （メリット：職員の意識を変える、日頃の接遇の見直しができる、事故時の確認記録として、虐待の予防等） 2. 24 時間シートの表紙に関しては、通院時や入院時等に活用ができてきていると思われる。ユニットサイドでは 24 時間シートの内容がおおよそ職員の頭に入ってしまえば改めて確認することは少なく参考にする程度になっているのが現状である。24 時間シートの活用の為モニタリング自体を現場に実施してもらったこともある。更新については、人によっては出来ていない状況は変わっていない。その都度声掛けで更新を促していくことが今後も必要だと思う。新入職員やユニットに慣れていない他の職員がユニット業務に入ったときに手助けになるように更新していきたい。（来年度は目標には掲げないが、24 時間シートの活用や更新は継続していく。）
医務室 目標	1. 看護における　的確、迅速な対応 ①医務室内の連携、申し送りの徹底 ②他職種の業務内容の把握と連携 2. 生活面を重視した看護 ①穏やかな生活が送れるよう支援 ②個々の既往、現病をふまえた生活の質の向上 3. 看取り対応時の看護の役割 個人の尊厳・尊重を重視し、ご家族の思いに寄り添う
評価	1. 看護における　的確、迅速な対応 ①申し送り、医務室内の連携が上手くいっていない現状

	来年度は申し送りの徹底を大きな目標として変更する ②他職種との連携は引き続き努力していく 2. 生活面を重視した看護 ①穏やかな生活が持続している支援が出来ているとは感じていない 来年度は支援看護を大きな目標として変更する ②生活面重視の一部として継続していく
厨房　目標	（食事サービス部門） 1. 食材の調理法を工夫し、キザミ食の入居者でも、可能であれば形のまま提供できるよう努力する 2. 食中毒防止の為、厨房内の清掃の徹底と、従業員の衛生教育及び健康管理に勤める 3. 新型コロナウイルス感染予防対策を守り、厨房内から感染者を出さないよう注意して業務を行う 4. 入居者の嗜好を把握し、定期的な献立の見直しや新メニューを取り入れることにより、喫食量の向上と、献立のマンネリ化防止を目指す 5. 四季に応じて旬の食材を献立にとりいれる 6. 施設からの申し送りを従業員全員に周知するため、連絡ノートを活用する （栄養管理部門） 1. 入居者、個々人の栄養状態及び嗜好の把握をする事により、喫食量の向上と健康面の安定を図る。又、好物の把握を終末栄養に活用していく。 2. ユニットの特性を生かし、ユニット単位の料理・菓子作りの企画と協力。 3. カンファレンス等により、他職種との連携を図り、栄養業務に活かしていく。又入居者様個人の食の意向をつかんでいくことにより、食事量減退時や看取開始時に活かし、入居者やご家族の想いに寄り添ったケアを実現していく。 4. 嚥下調整食分類 2021 に基づく当施設の食態分類の構築を目指す入居者の状態にあった適切な食事提供ができるよう、「食」の地域連携として、他施設との嚥下調整食に関しての共通認識・情報共有を進める。 5. 安全で安心できる食事を基本とし、衛生面だけではなく、誤配膳や誤提供のない食事提供ができるよう業務内容の見直しを行い、他職種・厨房職員と協力していく。
評価	1. 食材の調理法を工夫し、キザミ食の入居者でも可能であれば形のまま提供できるよう努力する。刻み食の方に柔らかく煮えた食材をそのまま提供出来ることもあったが、調理方法をさらに工夫する事で、より多くの料理を形のまま提供出来たと思う。来年度も引き続き目標とし多くの食材を形で提供出来るよう努める。 2. 食中毒防止の為、厨房内の清掃の徹底と従業員の衛生教育及び健康管理に勤める。食中毒防止のため、厨房内の清掃を日常的に行い事故なく一年間過ごせた。今後もより細かい部分の清掃を含め定期的に実施していく。従業員一同衛生管理、健康管理に努める。 3. 新型コロナウイルス感染予防対策を守り、厨房内から感染者を出さないよう注意して業務を行う。厨房内で感染が広がることなく安定した食事が提供できた。

	施設の感染対策マニュアルに従い、今後も対応に努める。 4. 入居者の嗜好を把握し、定期的な献立の見直しや新メニューを取り入れることにより、喫食量の向上と献立のマンネリ化防止を目指す。献立の見直しや新メニューへの取り組みは思うようにできなかった。調理法や食材の見直しで、美味しくなったとの意見をもらえるようになった。 5. 四季に応じて旬の食材を献立にとりいれる。平常時の献立に旬の食材を取り入れることは難しかった。イベント食や行事食で季節感が出せるよう工夫した。 6. 施設からの申し送りを従業員全員に周知するため、連絡ノートを活用する。提供間違い、盛付の分量など指摘されることが多かった。間違いのない安全な食事提供に努める。 （栄養管理部門） 1. 入居者、個々人の栄養状態及び嗜好の把握をする事により、喫食量の向上と健康面の安定を図る。又、好物の把握を終末栄養に活用していく。日々のミールラウンドでの食事観察や体重測定により経過を早期に把握することができた。コロナ感染予防のため、普段から食事介助に入ることを控えていたため、食思低下や摂取不良者への介入が難しかった。 2. ユニットの特性を生かしユニット単位の料理・菓子作りの企画と協力。実施するユニットに偏りが見られた。 3. カンファレンス等により、他職種との連携を図り、栄養業務に活かしていく。又入居者個人の食の意向をつかんでいくことにより、食事量減退時や看取開始時に活かし、ご本人やご家族の想いに寄り添ったケアを実現していく。他職種との情報共有に努めた。 4. 嚥下調整食分類2021に基づく当施設の食態分類の構築を目指す。入居者の状態にあった適切な食事提供ができるよう、「食」の地域連携として、他施設との嚥下調整食に関しての共通認識・情報共有を進める。嚥下調整食が必要な方の入居や退院時の食事提供に活用できた。 5. 安全で安心できる食事を基本とし、衛生面だけではなく、誤配膳や誤提供のない食事提供ができるよう業務内容の見直しを行い、他職種・厨房職員と協力していく。食中毒や誤食による事故は起きなかったが、厨房からの誤配膳が目立った。誤食に繋がらないよう、問題発生時の報告を徹底する。
A-1 ユニット目標	1. イベントのさらなる見直しと、個別に何をすれば良いのか、何が好きかなどレクリエーションやイベントにもつながる状況を聞き出し共有する。 2. 身体のケアと、心のケアの向上を目指す。
評価	1. 何が好きなど会話でのコミュニケーションは取れていたのではないかという意見が多かったが、介助が必要な方が増え、レクリエーションやイベントまでつなげる時間が取れていなかった。 2. 身体のケアに関してはできるだけ原因を追究して対応し、ユニットとしてできていたという意見が多かった。しかし、心のケアに関してはまだまだ難しく、結果として出せるようなことまでつなげることができなかった。

A-2 ユニット目標	1. 入居者の安全、健康を維持できるようユニット全体で取り組んでいく。 2. 引き続きイベントの充実を図っていく。
評価	1. 特に大きな事故もなくヒヤリハット等を活用し対応できていた。健康維持を目的とした自立支援についてはユニットで統一できていない部分もあったため、再度話し合い今後も継続していく。 2. イベントに関しては食事レクがメインで取り組めていたが、決まった職員が企画していたことが多かったので、引き続きユニット全体で行っていく。
A-3 ユニット目標	1. 体調の変化にすぐに気付けるよう、日々観察を怠らない。 2. 情報の共有をし、統一したケアを行う。
評価	1. 職員全員が目標を達成でき、反省はなかった。 2. ユニット内では共有でき統一したケアを行えたと思う。ペアユニットや他部署との連携や共有は難しかった。
A-4 ユニット目標	1. 入居者の思い、願いを汲み取り対応し、楽しく笑顔あふれるユニット作り。 2. 話し合いの場を適宜設け、さらにノートの活用を図り情報共有に努める。
評価	1. 前年より入居者の思いを汲み取り、生活の場で生かせたりレクに反映させたりすることができた。また目標を意識することで入居者に笑顔で対応することができた。入居者がユニットで過ごされる雰囲気も良かった。反面、入居者の思いや要望を聞き取ることができなかった面もあり、次年度も意識していきたいと思う。 2. ノートの活用までには至らなかったが、必要なときは適宜話し合いの場をもうけられ対応・変更と共に迅速に対応できた。細かい部分では情報共有できていなかった部分もあったため、次年度も気を付けていきたいと思う。
B-1 ユニット目標	1. ペアユニットを含む職員間で声を掛け合いお互いのフォローや助け合いをする。 2. 職員の対応の違いで入居者が混乱しないよう必要な所に関して統一を図る。 3. 個々の入居者にあった生活支援をする。 4. 入居者ファイルを活用し、申し送りや情報共有のミスを無くす。
評価	1. 職員間の声の掛け合いやフォロー、助け合いはまずまず出来ていた。今後は目標にはしないものの、助け合いが自然にできているので継続していく。 2. 小まめに職員同士で話し合いができていたので、入居者にも統一して同じ声掛けができていた。 3. 入居者の残存機能を活かし、必要以上に介助を行い過ぎない事、日中の過ごし方について塗り絵やちぎり絵等の創作、懐かしい歌や散歩等、入居者にあった生活支援を行えていた。 4. 入居者の個人ファイルはあまり活用しなかった。ペアユニット間ではラインワークスを活用し、情報共有ができていた。ユニット内での申し送りミスは多々あったので、必要な事や、そうではない事でも申し送りをする癖をつける為に、来年度も継続の目標とする。
B-2 ユニット目標	1. 各入居者の以前の生活や性格を理解し、自分の居場所を持てるユニット作り。 2. 入居者と職員が信頼関係を築き、健康で安全に暮らせる環境を提供できるユニット作り。

評価	1. 入居者と意識的にコミュニケーションを図り、以前の生活や性格を組み取り多少なりに生活に取り入れ対応する事ができた。半面、職員のペースで行ってしまう事も少なくはなかったので、その点は反省したい。また ADL や認知機能の低下により、横になる時間が長くなる入居者への居場所作りについては、生活歴等の情報収集が足らなかったと感じている。さらに職員が細かい点に気が付く目を養う事で、入居者全員へのより良い居場所作りができたのではないかと思っている。 2. 入居者へのポジティブな声掛けを意識し、訴えや要望にもある程度対応できたと思う。入居者の変化や状況に考慮して、他職種との連携を取り、便秘改善への取り組みや安全な食事摂取への方向性にも向ける事もできた。できなかった点としては、多動な入居者へ、常時目を届かせる事ができていなかったので、この点についても他職種とのより蜜な連携の必要だったと感じている。心理的な負担は身体に影響を及ぼす事を理解しながら入居者様の健康維持に努めていきたい。
B-3 ユニット目標	1. 外出やご家族との面会が制限されるコロナ禍で、入居者を楽しませられるレクリエーション等を多くし、活気のある生活、空間の工夫、提供を行っていく。 2. 入居者とのコミュニケーションを図りつつ。何を求めているのかを感じ取り、訴えがない入居者にも生活しやすい環境作りを目指す。
評価	年間を通して、直接的介助が中心になりました。個別対応を意識し、少しずつではありますが、実践する事で次年度に生かせる取り組みになった。 1. 食事行事計画では聞き取りを行い、好きな食べ物のメニューを提供できました。また入居者は調理に関わる作業も行い、「調理をして食事をとる」事への取り組みができた。余暇活動においては、日々の散歩や個別的な将棋の対局を通して、勝敗の意識、普段みない笑顔や表情が見られた。作業面においては、季節的な壁紙を入居者と考えながら個々の状況に応じた制作ができた。制作後は壁紙として掲示し話題作りに繋がった。また居室で過ごされている方に壁紙として掲示し環境作りに取り組めた。 2. リビングの模様替えやテーブルの配置等、生活面での環境作りに取り組めた。
B-4 ユニット目標	1. ユニット会議への取り組み 24H シートを活用し、入居者一人ひとりの状態把握をする。 2. 24H シートの有効活用と意識付けへの取り組み ①勤務時間及び、業務状況を確認して、目標として取り組む時間を設定し、勤務時間帯（20～22 時）に居室担当の 24H シートに目を通す。 ②24H シートの変更時は修正を行い、シートが身近な資料として意識付け、ユニット会議及び、カンファレスで活用していく。 3. 接遇及び余暇活動への取り組み ①入居者への言葉遣いや接遇方法見直し、入居者が安心できるように業務を行う。 ②ユニット行事や個別でのレクリエーション（歌、散歩以外でも）を実施する事で楽しみを持って生活が送れるように支援をする。

評価	1. 職員不足もあり、年4回以上の会議を行う事ができなかったが、会議にて入居者の情報把握や情報共有はできていたと思う。今後は定期的に会議を開催し入居者情報の共有と把握に努め、個別ケアに繋げていく 2. 毎月1回ほどだが、行事を行う事が出来た。またコロナもあり、散歩に行く機会が減っていしまった。できる時は体操や歌等のレクリエーションをユニット内で行うように努めたい 3. 入居者の食休みの為に、リビングを活用したり、リビングでテレビ鑑賞をするように努めた。入居者の状態（衣替えをするだけで落ち着かなくなったりする入居者もいるので）もあり、リビングの模様替えを実施する事はできなかったが、ユニット内の飾りつけ等は行えた。
C-1 ユニット目標	1. 個々に適した介助を行い事故防止に努めるとともに、入居者が訴えることに適切な対応を行う。 2. 居室担当者が適時24H シートの更新を行う。 3. 調理レクリエーションを積極的に行う。
評価	1. 事故防止を行うことができていた。利用者の対応についても不満等少なく適切な対応ができていたと思う。 2. 適時 24H シート更新はできていなかったため、次年度も引き続き目標とする。 3. 一年を通して調理レクができて利用者の笑顔が多く感じた。
C-2 ユニット目標	1. 継続的にレクリエーションを行い笑顔あるアットホームな雰囲気作りをする。 2. 日頃の健康観察から体調不良など少しの変化に気が付けるように努める。
評価	1. レクリエーションは毎月の担当者が責任をもち実施できていたが、コロナ禍で同じような企画になっていた。 2. 毎日 2 度の検温をしていることもあり体調の変化に気が付くことができていた。
C-3 ユニット目標	1. 24H シートを活用し、職員間で連携の取れた個別ケアを実践する。 2. 言葉遣い、介助方法に気を付け丁寧な介護を心掛ける。 3. 季節感のあるユニットレクリエーションを提供する。
評価	1. カンファレンス後、シート更新、新しい情報を職員で共有し個別ケアに生かすことができた。 2. ユニット会議内で話し合い、言葉使い・解除方法について対策を行った。連絡ノートも活用し以前に比べて改善されたと思う。 3. どうしてもコロナ対応で食事レク中心になってしまった。その代わり定期的にユニット内の飾りを変更することで、コロナ対応の中、季節感を感じてもらえた。 4. その他：コロナ対応で、入居者の居室対応が続いたためなるべく日常に近づける・こまめに声かけを行う等の対策を行ったが、ADL の低下が顕著に出てしまった。ユニットにコロナ陽性者が発生したが、最初は目立った症状が出ず、気づかず普通の対応をしていたため職員・利用者間で感染が拡大してしまったと思う。判明したときにはもう感染している状況で、初動対応の難しさを感じた。
C-4 ユニット目標	1. 24H シートを活用してユニット内で情報共有を行い、一人一人の笑顔を引き出せるユニット作りを目指す。

	2. 各職員が接遇方法を見直し、ユニットケアに対する意識の向上を図り、ユニット内の問題点の早期解決を目指す。
評価	1. 24Hシートは更新していたが情報共有ができていたかどうかは分からない。 2.「少し待ってください」等の声掛けが多かったと思われるので、そこを反省し改善していかなければならないと思われる。時間の余裕があるときや仕事の合間に入居者には声掛けを行っていたが機会が少なかったように思う。

通所介護事業報告書

1. 事業概要

特養併設型の通所介護事業所として、要介護・要支援者を対象に通常型のデイサービスで日帰り介護をし、在宅での生活が維持できるよう支援しています。また、総合事業「交流型」通所サービス「運動型」通所サービスを行い介護予防事業の一端を行っています。

2. 月間利用者数

令和3年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合　計
	415	419	396	447	370	411	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4,820
	416	441	430	391	276	408	
令和4年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合　計
	414	452	454	438	428	474	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	5,127
	466	461	430	321	365	424	

3. 介護度別利用者数

R5.3.31 時点

区分	事業対象	要支援1・2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
令和3年	8	7	15	9	8	4	3	54
令和4年	10	9	16	9	7	4	4	59

4. 事業所で特別に行ったこと

○　利用者のお誕生日に、お花・写真のプレゼント。
○　新年会、節分、ひな祭り、お花見、夏祭り、クリスマス会などの季節行事。
○　敬老の日前後に、「感謝祭」を開催。他部署の職員にも加わってもらう。
○　さつま芋・野菜・花等の園芸活動や、桜・バラ・コスモス観賞のドライブ。　中止
○　各種舞踊やマジック、朗読会などのボランティアをお招き。　中止

5. 職員の状況

R5.3.31 時点

職名	人数		兼務の状況	性別	資格
	常勤	非常勤			
相談員（管理者）	1		○	男	介護支援専門員、社会福祉士
相談員	1			男	介護支援専門員、介護福祉士
介護職	1	4		女	介護福祉士
介護職		1		女	
看護師	1	2		女	看護師、准看護師
運転手		3		男	普通自
合計	4	10			

6. 目標に対する自己評価

通所 目標①	感染症対策を徹底しつつ、利用者やその家族が安心して利用してもらえるよう、環境作りと雰囲気作りに努めていく。
評価	在宅利用者の感染対策にはできることに限りがあるが、トイレの定時消毒等できる範囲で努力した。利用者及び家族向けに満足度調査を行ったが、概ね満足していただいているようなので、継続して良いサービスが提供できるよう努めていきたい。
通所 目標②	デイでの取り組みを利用者家族やケアマネージャーに PR していく。
評価	DM 等で他事業所に PR することはできなかった。ほほえみ便りは継続して発行している。

在宅介護支援センター事業報告

1. 事業概要

在宅で生活しているお年寄りが、日常生活を営むために必要な保健医療サービス又は福祉サービスの適切な利用をすることが出来るよう計画を作成すると共に、市からの事業受託にて独居高齢者等の実態把握や介護サービス啓発のための事業などを行っています。

2. 月間利用者延数

令和3年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合　計
	241	250	257	255	258	256	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	3,124
	255	263	267	275	273	274	
令和4年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合　計
	269	272	281	277	278	287	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	3,404
	289	292	293	286	289	291	

※要介護+要支援（総合事業利用者含む）

3. 介護度別利用者数

R5.3.31 時点

区分	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
令和3年	21	24	103	51	23	18	7	247
令和4年	33	41	89	68	30	22	8	291

※上記令和3年まで要支援のうち総合事業利用者を含まず

4. 事業所で特別に行ったこと

- ○ 県立大学IP演習参画（リモート） 1チーム
- ○ ケアマネジャー合格者実務研修実習生受け入れ　0名
- ○ 出張無料相談会（西楽園、湯けむり横丁）　中断中
- ○ 高齢者サロン（自治会勉強会）でのお手伝い　3回
- ○ 指扇地区社協学習推進部会出席　10回
- ○ 指扇地区社協高齢者部会出席　10回
- ○ 指扇地区社協理事会出席　1回
- ○ 一人暮らし高齢者世帯見守り訪問（随時）
- ○ オレンジカフェ（包括三恵苑主催）出席　なし
- ○ ふれあい会食で相談窓口の設置(指扇及び内野地区社協)　4回
- ○ 西区包括在支連絡調整会議　7回
- ○ 劇団にしく参加（打ち合わせ）　計6回
- ○ 西区地域生活支援拠点ネットワークづくり会議出席（2月）
- ○ 西区「シルバーライフ向上事業」参画（10月）

5. 職員の状況

R5.3.31 時点

職名	人数		兼務の状況	性別	資格
	常勤	非常勤			
センター長 （管理者）	1		○	男	主任介護支援専門員
ケアマネ	1 2 1 	 1		女 女 男 女	主任介護支援専門員 社会福祉士 介護福祉 介護支援専門員 介護福祉士 介護支援専門員 介護福祉士 介護支援専門員 社会福祉士 介護福祉士
合計	5	1			

6. 目標に対する自己評価

支援センター目標①	利用者件数の維持及び増数に備えて、各記録様式の ICT 化を検討着手する。
評価	次年度（5 年度）に新しい業務管理ソフト導入が決まり、それに準ずることとなる。
支援センター目標②	福祉機関としての地域貢献を継続し、事業所の存在を地域に定着させる。
評価	内野本郷のサロン再開、民生委員改選に伴う集会などわずかに動き出した地区活動に参加。また、次年度再開の無料相談会の準備に向けた参画など地域貢献を継続した。

地域包括支援センター事業報告

1. 事業概要（実績）

	地域活動	ネットワーク構築	認知症サポーター 養成講座、その他
R4 4 月			
5 月	・サロンおあしす （五味貝戸自治会館） ・びわの会 （指扇台団地自治会館）	・地域支援会議 ・指扇地区民生児童委員 連絡協議会 ・指扇地区社協見守り部会	
6 月	・サロンおあしす （五味貝戸自治会館）	・西区地域包括連絡会 ・内野地区民生児童委員 連絡協議会 ・指扇地区社協サロン交流会	・認知症サポーター養成講座 ロイヤルレジデンス
7 月	・内野本郷きらめきサロン（内野本郷自治会館） ・赤羽根ほっとサロン （赤羽根自治会館）		
8 月	・指扇祭り		
9 月	・オーベル いきいきサロン		・西区老連 グラウンドゴルフ大会
10 月	・寿会 （宮前一丁目自治会館） ・森と風のサロン （内野本郷自治会館） ・内野地区社協会食 （内野公民館）	・地域支援会議	・西区シルバーライフ向上事業 （指扇公民館）
11 月	・下宝来いきいきサロン （下宝来自治会館） ・にこにこサロン （下郷自治会館） ・内野地区社協会食 （内野公民館）	・西区地域包括連絡会	・西区シルバーライフ向上事業 （内野公民館） ・認知症サポーター養成講座 植水自治会
12 月	・指扇地区社協会食		・いきいきサポーター フォローアップ研修
R5 1 月	・下宝来いきいきサロン （下宝来自治会館） ・にこにこサロン （下郷自治会館） ・オーベルいきいきサロン		・新人民生児童委員研修会
2 月	・にこにこサロン （下郷自治会館） ・サロンおあしす （五味貝戸自治会館）	・指扇地区民生児童委員 連絡協議会	・認知症サポーター養成講座 青木信用金庫 ・認知症サポーター養成講座 指扇地区社協
3 月		・地域支援会議	・認知症サポーター養成講座 土屋中学校 ・いきいきサポーター交流会

2. 月間利用者数

令和3年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
	456	426	470	476	469	482	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	5,703
	489	491	486	488	480	490	
令和4年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
	497	496	505	503	488	510	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	6,159
	522	531	526	526	525	530	

3. 職員の状況

職　名	人　数		兼務の状況	性別	資　格
	常勤	非常勤			
管理者・社会福祉士	1		○	男	社会福祉士 介護支援専門員
社会福祉士	1 1			男 女	
主任介護支援専門員	3			女	介護支援専門員 介護福祉士
看護師	3			女	看護師 介護支援専門員
生活支援 コーディネーター		1		男	
事務員	1		○	女	
合計	10	1			

4. 目標に対する自己評価

包括　目標①	地域で運動活動をしている団体の情報収集と整理を行い、地図を用いて活動状況を見える化する。
評　価	運動している団体の情報をさいたま市シルバーポイント事業に登録している一覧や、地域支え合い推進委員が把握している団体、各職員が把握している情報を整理し、実際の活動状況を確認できるように努めました。また、その情報を地図に落とし、地域の団体の分布図を作成しました。活動状況を把握できていない団体も多数ありましたが、地域の運動する団体の分布を把握することができました。今後は、この結果を基に、運動できる場が開設できるようにアプローチに努めます。
包括　目標②	相談件数が多くなりケースが多様化しているので、整理するための事業所内ミーティングの充実を図る。
評　価	ミーティング時には、ケースの情報共有を図り、困難なケースについては、ミーティング以外でも、随時、情報共有を図り意見交換しケースに対応した。